

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和4年度 第4回 川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局 (担当課)	参画協働課		
開催日時	令和 5 年 3 月 15 日(水) 午後 7 時から午後 8 時半		
開催場所	川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	岩崎恭典(WEB)、田中晃代、藤本真理、西原千佳子、久保田啓子、細見美咲、石伏淳子、大西僚、京極光泰、名畑龍史、山中彩永(WEB)	
	その他	市民活動センター(男女共同参画センター):指定管理者 三井ハルコセンター長、吉尾豊スタッフ	
	事務局	石田総合政策部長、金淵総合政策部副部長(広報・参画担当)、岸本参画協働課長、山元同課課長補佐、長見同課主任、津賀同課主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	2 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="text-align: center;">1 開 会</p> <p style="text-align: center;">2 議 事</p> <p style="text-align: center;">(1) 第 3 期川西市参画と協働のまちづくり推進計画 必要な取り組みについて</p> <p style="text-align: center;">3 閉 会</p>		

1 開会

○事務局

川西市参画と協働のまちづくり推進条例第10条の規定により、本会議は公開となる。なお、本日は1名委員が欠席、3名が遅れての出席の連絡をいただいている。したがって、本日、出席委員は、定数12名中8名。また、川西市市民活動センター長である三井ハルコ氏、市民活動担当スタッフの吉尾豊氏がオブザーバーとして、出席いただいている。本日は市広報誌（みらいふ）の取材で写真撮影を行っている。

それでは、ここからは岩崎会長に進行をお任せする。

○岩崎会長

事務局から報告いただいたとおり、本日の出席委員は、定数の過半数に達しており、川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則第7条第2項の規定により、本日の会議は有効に成立している。

今回は、推進計画における「めざす状態」を再度議論し、みんな気づいたら参加している、こちらの意見にまとまった。アプローチの仕方については、みんなというのが当事者であったり、一番地域で役割がある自治会といった話があった。

今回は、その「めざす状態」に近づくための必要な取り組みについて、ワークをしてもらい、意見を出し合っていたきたい。

では、議事に入る前に事務局から参考資料について説明をいただきたい。

○事務局

参考資料1 説明 市民アンケートクロス集計結果について

○岩崎会長

市民アンケートクロス集計結果について、ご意見やご質問をいただきたい。

< 委員からの発言なし >

2 議事 (1) 第3期川西市参画と協働のまちづくり推進計画における必要な取り組みに

ついて

○岩崎会長

それでは、次第の「2 議事 (1) 川西市参画と協働のまちづくり推進計画における必要な取り組み」について事務局より説明をいただきたい。

○事務局

資料1 説明

○岩崎会長

考え方として現状から取り組みを考えていくのか、またはめざす状態に向けてどんな取り組みが必要かと考えていくのか、ベクトルが違うものが資料1には混在している。そこで、このめざす状態に近づくための必要な取り組みについて、皆さんにワークシートにご記入いただき、その後各グループで意見を出し合っていたきたい。

Aグループは、田中副会長、Bグループは、藤本副会長に進行役になっていただき、書記は事務局、発表は、委員のどなたかをお願いしたい。

めざす状態に近づくための「必要な取り組み」について、10分間、各自がワークシートに記載し、その後45分間話し合っていたたく。その後、5分間でまとめ、グループの発表を3分をお願いしたい。

各ワークシートへの記載について、事務局の方からもう少し詳しい説明をお願いしたい。

○事務局

ワークシートへの記載方法を説明

○各自ワークへの記載

○グループに分かれて話し合い

(主な意見)

Aグループ

対象者1～3の方達への取り組みを考えた。知る取り組みとして、市政について話せる場があることが大切ではないか。イメージとしては、井戸端会議の復活。興味を持つ取り組みとして、イベントを企画してポスティングする。地域で何か得意技を持っている人たちを集める。人材バンクの様なものを立ち上げ、個人情報もあるので行政がデータベースを作成し、地域とのマッチングをはかっていく。報酬として、事業者にも入ってもらい、地域で使用できるクーポンを考えてみてはどうか。参加する取り組みとして、地域でつながったチームで結成されたスポーツ大会や年代別に参加してもらえる企画を立てる。帰属欲求を満たすイベントの実施。以前、地域で知人をお願いしてジャズライブを企画し開催した。多くの年代の方が参加され、好評であった。

やはり、自治会をもっと活用することがいいのではないかな。

Bグループ

対象者1～3の方達への取り組みを考えた。知る取り組みとして、スマートフォンを活用する。双方向性のアプリを創る。市民がつくる広報誌の欄があつてはどうか。例えば、市民が職員を紹介する。参加しやすいプラットフォームをつくる。クラウドファンディングで夢を実現する。立ち上げ時の費用を補助する。興味を持つ取り組みとして、地域の情報をQRコードやラインを使用して広める。目立つ封筒で案内状を送付する。実践している人や身近な人を紹介する。スタディツアーの企画。参加する取り組みとしては、スマートフォンで意見が言えるための設定を行う。出来るだけ多くの世代が参加してもらっている姿をみてもらう。顔を知られない形での参加やオンラインによる参加はどうだろうか。

○各グループのまとめ

○各グループの発表

○Aグループ

1つは、井戸端会議。アナログではあるが、掲示板があるところでは、人を募集していたり、地域の者同士のつながりのきっかけになるのではないかな。

掲示板は、駅にあつたり、また、保育園などのバス停留所でママ友達が話をしているイメージ。何かしら共通のものがある人たちとの連帯があるのではないかな。多くのことが書かれている掲示板の前では、連帯感が深まるのではないかな。

最近掲示板にはデジタル系もある。マッチングであり、内容として、人材バンク。これはいろんな能力があったり、たとえば楽器が出来たり、コンピューターが得意であったり、これらをひとつの情報とする。個人情報になるので市にまとめてもらえたら良い。市民やグループ、自治会、介護施設などが人材バンクを利用して活躍の場を、市民の隠れた才能を持つてる人たちを紹介できる、そのようなつながりがつくれるのではないかと話をした。

それとやはり報酬的なもの、実費ほどになると思うが、交通費、お弁当などをクーポン券として報酬にする。クーポン券は、市内の事業者。スーパーやレストラン、タクシー会社などで使えるようにする。事業者の人も抱え込んで一緒に盛り上がると色々つながってくるのではないかと思う。これもひとつの市のまとまりになり、楽しいのではないかと話をした。

OBグループ

主にキーワードとして出たのが「スマートフォン」と「楽しく」と、まちづくりしましょうといった話が多かった。

15年くらい前は、スマートフォンがなかった時代だと思う。今は、多くの方、全員とは言えないが、毎日1～2時間、ないし2～3時間スマートフォンを触っている。これは今までなかった時間をスマートフォンが作り出した状況になっている。

そのスマホを活用しない手はない。まず知ってもらうためにスマートフォンで情報発信していく。QRコードや双方向性のチャットツール、広報誌も含めて、今されているものもあるが、まず知ってもらう取り組みをしていく。

興味をもってもらうために、実際に自分たちができることをしてもらう。みなさんに夢を、これは楽しいこと。楽しさでの動機付けが大事である。楽しいと思ってもらうために、クラウドファンディングでみなさんの夢を募って実現させるプロジェクトをいくつか立ち上げる。その後方支援を市でする。それをかたちにしていくと、みんなが興味を持ったり、すきま時間を生かして、大きな負担もなく参加できるのではないか。

また、最近話題になっているバーチャル空間である。時には身分を偽った方が参加しやすい、地域の目があるからいけないといった、参加のハードルを下げることで、オンラインだけでなくバーチャル空間みたいなものもあるといいのではないか。スマートフォンで色んな意見が出せると良いといったところが出ている。ただ、スマートフォンを使わない人もいるし、オフライン上での交流も大事である。

以前より案として出ている源氏まつりは、すごく良い取り組みである。みんなでコスプレをして、おもしろく、楽しさを感じながら、広報も市民が取材した記事を作ったり、そのような楽しさをスマートフォンを軸にまちづくりできると、結果として色んな人が参加できるのではないかといった話をした。

○岩崎会長

A班がフェイス版、B班はバーチャルリアリティ、対局でしたが両方楽しく、得意技を生かすところは共通していた。

A班は得意技を持っている人が楽しく地域に参加してもらえるような仕組みを作っていくのがよいのではないかといった話が中心だった。

報酬の観点でクーポンについては、大変な部分はあるが地域通貨も考えたい。地域通貨はなかなか定着しないが、地域通貨は地域でしか価値をもたない。その価値を住民が決めることができる。地域通貨を報酬の一部にあてると、参加の1つの大きな手段になるのではないか。

B班はスマートフォン前提で考え、財政的な問題ではクラウドファンディングを中心に考え、現代的だと思った。

今日は、幅のあった議論が参画と協働の手法として、聞くことができた。

それでは、本日はここまでとさせていただきたい。

今後も議論を重ねていきながら、次回も再度取り組み内容の検討をしていく。

委員から何もなければ事務局にお返ししたい。

○事務局

次回の推進会議は、4月に開催させていただきたい。

(20:30終了)